

>>> 家庭経済

4つのタイプで考える「共働き」の家計管理



ファイナンシャル・プランナー
／行政書士
福島 えみ子

[ふくしま・えみこ] CFP®、1級FP技能士、DCプランナー。銀行、法律事務所、FP会社を経て独立。金融商品の販売・仲介を行わない独立FPとして、ライフプラン、家計、老後資金、資産運用、相続などを中心に、個人相談、セミナー・企業研修、執筆などを行う。著書に『お金が貯まる! 世帯年収500万円から始める共働き夫婦の超効率家計簿』(徳間書店) など。

共働きの家計について、「どう管理すればよいかわからない」「管理しにくい」といった声を家計相談の場でよく耳にします。共働き家計は、お金の入口も出口も2つあるため、管理が自分一人では完結しない点が管理の難しさにつながります。そこで、共働きの家計管理について、より管理しやすくするコツをご紹介します。

共働き家計の「つまずきポイント」は?

共働き家計をいくつも拝見していると、「つまずきがちなポイント」があるのを感じます。しかし、あらかじめ、それを知っていれば、回避しやすくなるのではないのでしょうか。いくつか見てみましょう。

①「自分は節約しているのに、相手が節約してくれない」

よく耳にするお悩みです。例えば、妻が食費を抑えようと毎日お弁当を作っているも、夫は箱買いしたビールを毎日「もう一本」と好きに飲んでしまい、それが食費を膨らませているなどです。

なぜこうしたすれ違いが起こるのでしょうか? それは、この例でいえば、毎日お弁当を作る妻の目的と効果が夫に伝わっていないからです。単に栄養やダイエットのためとしか思われていなかったかもしれません。

ただし、伝えるにしても、「私がこんなに頑張っているのに節約してよ!」といった感情論では何の解決も得られないどころか、上から言われた感だけが残るばかりです。

それに対して、「なぜ食費を削減する必要があるか、その削減が将来のライフイベントのための貯蓄にどう貢献するか」といった目的と数字が明確なら、「確かに、このままでは老後資金も教育費も足りなくなるね。だったら、自分はずっとビールの本数を減らすよ」などの自発的な行動につながりやすくなります。

②「ケンカになるから家計のことは口に出さないようにしている」

共働きで忙しい中、せっかくな家計の話を持ち出してもケンカになることが続けば、家計の話題を避けるようになりがちです。だからといってそのままでは、いつまでたっても家計は改善しません。

対処としては、紙やノートを食卓等に置いて見てもらう、メールを送る等の「相手のタイミングで、目で見て確認できる手段」で、具体的な数字を使って、「このままではこうなってしまうため、こう提案したい」と伝えてみましょう。「感情ではなく、数字に語らせる」のがコツです。

③「2人で稼いでいるのに貯まらない」

「2人で稼いで結婚前よりも入ってくるお金は多いはずなのに、なぜか貯まらない」とこぼす人も少なくありません。

詳しく家計を見てみると、「2人で働いているから、これぐらいはいいよね」といった、油断支出や「ご褒美支出」が膨らんでいるケースが見えます。しかし、「これぐらいは」の蓄積は、支出が膨らむものです。

こういった家庭では、「何にいくら使っているのか」を把握するのが、急務です。後述する家計管理タイプのいずれであっても、共同で使う部分だけでも、月や年の支出額と内訳の具体的な金額をまずは出してみることをおすすめします。その上で、共同で使う支出の必要度で優先順位をつける作業



【図表1】家計管理のサイクル例

パターン①

	入金	出金
15日	お給料	
25日	お給料	
		家賃
		電気代
28日		ガス代
		携帯代
4日		クレカ①
6日		スポーツクラブ
10日		クレカ②
		水道代
		月謝

15日～翌14日サイクル

パターン②

	入金	出金
25日	お給料	
		家賃
		電気代
28日	お給料	
		ガス代
		携帯代
4日		クレカ①
6日		スポーツクラブ
10日		クレカ②
		水道代
		月謝

25日～翌24日サイクル

パターン③

	入金	出金
10日	お給料	
		クレカ②
		水道代
		月謝
25日	お給料	
		家賃
		電気代
28日		ガス代
		携帯代
4日		クレカ①
6日		スポーツクラブ

10日～翌9日サイクル

を夫婦で行ってみましょう。

④「夫婦それぞれの給与振込日が違うため、一緒に家計管理しにくい」

「夫婦の給与振込日が違うため、一緒に月ベースで管理しにくい」という声もあります。では、どう管理すればよいでしょうか？それには、月初から月末までの1カ月にこだわらないのがコツです。そのご家庭によって最適な1カ月のサイクル（期間）は違ってくるからです。最適サイクルを見つめるには、まず、夫婦の給与日と定期的な支出日（口座引き落とし等）をすべて書き出してみましょう。そして、多くの支出日より先で、かつ夫婦の給与日のうち先に来るほうを起点にした1カ月が、自分達の最適サイクルです。

【図表1】のパターン①～③は、同じ支出項目がある家庭のそれぞれの管理サイクルです。支出項目と支出日が同じでも、夫婦の給与日が違えば、把握しやすいサイクルの起点は異なるのがわかります。

この自分達の最適サイクルを決める作業は、一度やっておけばいいだけです。休日などに行ってみてください。

自分達に適した家計管理タイプは？

「お互いの収入や支出をすべて見せ合って合算しなければ貯まりにくいと耳にしますが、本当でしょうか？」という質問を受けることがあります。

結論からいうと、お互いの収支をすべて見せ合わなくとも、貯まる家計は実現できます。見せ合うことに抵抗を感じたまま無理をして合算しても、家計管理は続きにくくなります。それよりも、「自分達に合った家計管理タイプ」で、無理なく続けたほうが、結局は貯まる家計になりやすいのです。

ここからは、共働きの家計管理タイプをご紹介します。紹介していきますが、「正解」のタイプは1つではありません。それぞれに一長一短あります。自分達の場合は、どのタイプが合いそうなのかを考えながら、見ていってください。

共働きの家計管理タイプは？

共働きの家計管理タイプは、大きく4つ

のタイプA～Dに分けられます。そのうち、共同でかかる分をどう出し合うかで、Cタイプはさらに2タイプに分かれます【図表2】。

A オールオープンタイプ

夫婦の収入額・支出額とその内容もすべて合算して管理していくタイプです。

メリットは、家計の全体像が見えやすく、貯蓄プランやライフプランも立てやすい点。

ただし、夫婦のどちらかでも、何にどれだけ使ったかの共有を面倒がるようだと、結局は使途不明金に振り回される家計となりがちです。単に合算管理するだけでは貯まる家計にはなりません。このタイプでも予算と貯蓄目標をしっかりと設定しておきましょう。

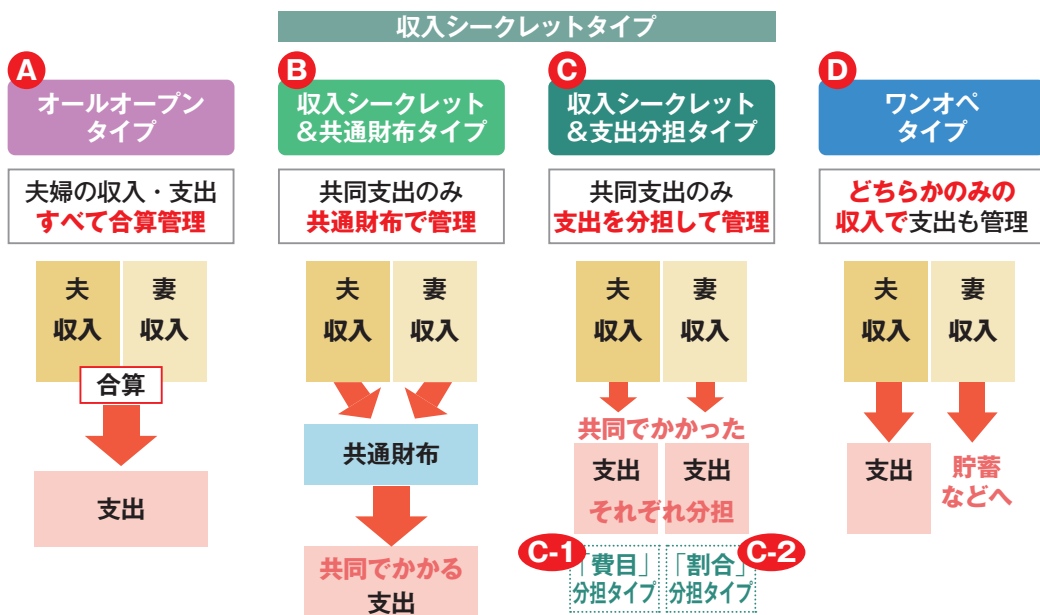
B・C 収入シークレットタイプ

収入をお互いに見せ合わない家計をここでは「収入シークレットタイプ」と呼んでいきます。この収入シークレットタイプは、共同で使う部分の管理方法によって、共通財布をつくる「B」と、かかった支出を分担する「C」のタイプに分かれます。

B 収入シークレット&共通財布タイプ

収入を見せ合わずに、それぞれが自分の収支を管理し、共同で使う部分のみ一定額を出し合って夫婦で管理していくタイプです。具体的には、あらかじめ一定の額をお互いに収入の中から出し合って、そこから食費や水道光熱費等の共同の支出を賄っていきます。また、その共通財布から、例えば教育費やマイホームのための貯蓄も行います。なお、この共通財布にどうお金を出し

【図表2】共働きの家計管理タイプ



合うのか？ については、例えば等分や夫6割・妻4割など、どのように決めても構いません。

ただ、共通財布に入れる金額を決めるには、まずは、現在、共同で使っている家計の金額はどれぐらいかを把握する必要があります。もしすぐにそれがわからなければ、

暫定的に金額を決めて、次第に最適な金額に調整していくのも一つです。

C 収入シークレット&支出分担タイプ

収入を見せ合わずに、それぞれが自分の収支を管理し、実際の共同支出分に対して分担して負担するタイプです。分担の決める方によって、さらに次の2タイプに分かれます。

C-1 支出の「費目」で分担タイプ

費目ごとに担当を決めるタイプです。例えば、家賃や住宅ローン、水道光熱費は夫、妻は食費と日用品費を負担するなどです。担当が明確ゆえ、シンプルに管理できる

メリットがありますが、注意すべきは担当分けにより、次第に不満が募っていくこともある点です。よくあるのが、片方に食費など変動しやすい費目が集中しており、それらの支出増が続いて不公平感につながるケースです。また、子どもの習い事など当初はなかった費目の出現で分担バランスが崩れることも。

そのため、このタイプでいくなら、マメにバランスを見直すようにしましょう。

C-2 支出の「割合」で分担タイプ

実際にかかった支出を、割合を決めて負担していくタイプです。このタイプは、会食をする度に割り勘をするといった感覚に近いかもしれません。

Cタイプでは、いずれの分担タイプでも、かかった支出を負担し合うだけですから、支出を抑えにくいのがデメリットです。

予算立てと支出管理を特に意識して行いましょう。

D ワンオペタイプ

最後のワンオペタイプは、どちらかの収入だけで支出を賄い、もう片方の収入はまるまる貯蓄などとするタイプです。

「片方の収入は無いものと思って、できるだけ貯蓄に回せるよう頑張っています」というご家庭もあります。両方の収入があると思うと油断してつい使いすぎてしまうという家庭には、検討の価値がありそうです。

さて、ここまでのタイプの中で、皆さんのご家庭はどのタイプであれば、最もストレスなく家計管理していけそうでしょうか？

どのタイプであっても、とにかく①把握すべき家計の数字が把握できて、②必要な貯蓄ができること、この2点がクリアできていればよいわけです。そのためには、「何を共有して、何を共有しないのか」をあらかじめつきり決め、共有すべきことは定期的にも必ず共有していくことが、どのタイプでも必須です。

また、貯蓄について、「いつまでに、いくら貯蓄するのか」という具体的な金額の目標を立て、達成度を定期的に共有し合うことが、どのタイプでも理想的です。特に「C（収入シークレット&支出分担）タイプ」では、貯蓄はそれぞれで行うことになるため、より強く貯蓄目標と達成度を意識したいところです。



執筆者の本

『お金が貯まる! 世帯年収500万円から始める共働き夫婦の超効率家計簿』
福島えみ子、江尻 尚平 著
[徳間書店、2020年12月、1,760円]

共働き家計の整え方

● 夫婦のお金は誰がどう管理する？

自分達に合った家計管理タイプが決まったとして、では、共同部分の日々の家計管理は、夫婦のうちどちらがどう行っていくべきなのでしょう？

共有すべきところさえ共有できていれば、どちらが管理していても構いません。もちろん、どちらかがすべて管理してもよいのですが、支出管理は夫、口座管理は妻というふうに担当分けしておく、負担感も分散されて続きやすいようです。

また、支出管理も口座管理も一つにできる「家計簿アプリ」を使うと、夫婦間の共有も楽にできて、共働き家庭には特におすすめです。家計簿アプリであれば、通勤電車の中などスキマ時間での入力や確認も行えます。避けたいのは、お互いに「相手が管理しているだろう」と考えていて、蓋を開けると誰もやっていなかったというパターンです。それを防ぐためにも、漠然と「ちゃんと管理しよう」ではなく、具体的に、誰がどんなペースでいつ管理するかまで、はっきりさせておくことをおすすめします。

● どの口座で管理する？

迷いやすいのが、「どの銀行口座で共同部分を管理するか？」です。「D（ワンオペ）タイプ」以外の家庭でわかりやすいのは、共同で使う専用口座を設ける方法です。た

だ、日本では現在のところ、夫婦共同名義の口座を開設できません。そのため、実際はいずれかの名義の口座を共同口座として設定することになります。

ここで注意したいのは、口座残高が基本的には口座名義人の資産とされる点です。共同の口座だからと、相続時に相続財産から除外するわけにはいきません。そのため、特に、貯める口座は、夫婦どちらかの口座に残高が偏りすぎないようにするのが理想的です。ただ、収入に大きな差があるのに等分に口座に残高があれば、場合によっては、夫婦間贈与とみなされて贈与税がかかる可能性もないとはいえません。大まかにでも、収入に応じた割合で入れておけるとよいでしょう。

● 共同部分と個人分は明確に

共同口座を使った家計管理で気をつけたのが、個人部分と共同部分の支出をしつかりと分けるということです。特に、夫婦それぞれがいったん共同分を立て替えて、共同口座から精算するという場面が多いと、家計管理が迷宮入りしがちです。

そこで、共同部分について、できるだけ口座振替やクレジットカードなどのキャッシュレスを利用し、共同口座から自動的に支払われるようにするのもおすすめです。

このとき、個人分と共同分で、キャッシュレスの種類を分けておくと、仕訳をしたり立て替えたりする手間がなく、便利です。現金の支出が多いという場合は、立て替

えをせずにすむよう、「代理人カード」など、一つの口座で複数のキャッシュカードを持てるしくみ（注：発行の可否は金融機関による）を利用するのも一つです。

● 共同部分だけでも、しっかりと共有を

そもそも家計管理の目的は何かというと、将来、必要なときに必要なだけのお金が準備できていることはずです。それには、収入と支出の差額を必要なだけ残していけるかが肝です。そうであれば、家計管理タイプにもよりますが、最低限、共同部分についてだけでも、夫婦間で「共有」を避けるわけにはいきません。そして、食を重視したい家庭もあれば、それよりも住環境を充実させたい家庭もあるなど、実現したい生活やライフプラン、価値観はそれぞれです。

家計は家庭経営そのものともいえますから、どの家計管理タイプであっても、方向性と家計状況を定期的に共有する機会を持つのが、スムーズな家計管理のコツです。

あるご家庭では毎月第一日曜の朝を「〇〇家の家計会議」と決めたところ、お互いにしたいことや提案を忌憚なく話し合える場になっていくとのこと。この日はお金のことを話す場と決まっているため、今までのように、「お金のこと、いつ切り出そう」と迷うこともなくなったそうです。

家庭ごとに、最適な家計の管理のしかたは違います。ぜひ、無理やストレスなく続けるためにも、自分達に合った家計管理を目指していつてください。